

れいめい

2009年10月号 (秋号)

〒869-0502
熊本県宇城市松橋町松橋1455番地1
TEL 0964-32-3111
FAX 0964-32-3112
<http://www.reimeikai.jp/>

宇賀岳病院理念

『私たちはまごころをもって
信頼の医療を実践し地域に貢献します』

基本方針

- 『常に情報を公開し、開かれた医療を実践する』
- 『医療機関・施設と密に連携し、
地域の住民に質の高い医療を提供する』
- 『地域ニーズにあった診療科目と
診療内容の充実に努める』
- 『医療の安全性を高めるよう自己啓発に励む』
- 『魅力ある職場づくりを目指す』



日本医療機能評価機構

開院25周年にあたって

理事長 清水 寛



宇賀岳病院が宇城地域の核的病院として発展し、今年開院25周年を迎えることができました。これは偏に地域の皆様の御支援並びに職員の努力の賜と感謝します。

病院設立を考えた30年前、建設予定地の前は車も通らないような細い農道があるだけでした。ところが三角町から城南町にかけて大きな道が通るといふ話が持ち上がり、それでここに病院を建設しようということになりました。

当時は、今の松橋町を中心とした宇城市の活気ある町並みからは考えられないほど交通の便が悪く、重傷の患者さんであっても、市内の大きな病院へ搬送出来ず、自ずと治療に限界もありました。

そのころ、全国的に医師会立病院設立ブームが起り、宇土郡市及び下益城郡医師会にもその機運が高まり、医師会病院を

設立しようと調査や協議を重ねましたが、諸般の事情により結局、実現することが出来ませんでした。

しかし、医師会病院設立に熱心だった両郡市医師会の開業医は地域住民の方々にもいつでも二次救急医療を提供出来る病院を自分達で設立したいという熱い思いで、3年間の準備期間を経て昭和59年7月1日宇賀岳病院を創設することが出来ました。

開院当初は夢と現実の狭間で大変苦労しましたが、熊本大学病院を始め多くの方々の御支援を得て、救急医療を担う48床の病院からスタートした宇賀岳病院は現在、199床、15診療科を有する特定医療法人「災害拠点病院」「救急指定病院」及び「感染症指定病院」として宇城地域の方々の厚い信頼を得るまでになりました。

今後、宇賀岳病院は健全な収支を礎に、より高度な医療機能を獲得し、真に地域の中核的病院として質の高い医療を提供するとともに医療の集約化及び機能分担を行い、熊本市内や地元病院・診療所との病診連携を強化することにより、「安全で安心な医療環境」を構築し、地域医療に貢献したいと考えています。

今後とも御支援の程宜しくお願ひ申しあげます。

25周年開院記念式典

宇賀岳病院 開院25周年 記念祝賀会



鏡割り



江上院長挨拶

開院25周年 記念を迎えて

診療情報管理士 岩崎 眞理子



平成21年7月1日
天と地が繋がってしま
まったかのような、激
しい雨も夕方には上
り、宇賀岳病院の開院

25周年記念の祝賀会が開催されました。開院当時を思い起こせば病院前の道路はまだ開通しておらず、蓮根畑の中にボツと建った小さな病院でした。それは、現在の西館48床、職員40数名からの出発でした。小さな病院ではありましたが、とてもエネルギーギッシュな情熱と力を秘めた病院でした。開院当初の7人の侍ならぬ理事の先生方の理想と夢がいつぱい詰まった病院だったと思います。カルテ・伝票・医療材料の準備など何もかもがゼロからの出発でした。また、職員は当時の社会現象であるUターン組の集まりでしたから、処置の手順などは千差万別でお互いにおつかり合うこともありました。職員の待遇は、「公務員に準ずる、地域の救急医療を目指す。」でしたが、なかなかその待遇には程遠く、他の病院へ移った人、目指すべき救急病院は、時折どこを目指しているのだろうかと思ってしまう。若い職員のなかには、もっと勉強をしたいと去った人もいました。多くの人を送り出した反面、当院に可能性と発展を期待する多くの人を受け入れて来ました。自分

たちで作った資料を基に糖尿病教室を開いたこと、また現在は、常時7台は稼働していることの多い人工呼吸器は、当初1台しかなく、辞書を片手に英語版の説明書を翻訳し、使用方法と取り扱い方を勉強したことなどとても懐かしく思い出します。現在は臨床工学士の安全管理の下に安心して人工呼吸器も使用出来る体制が取られています。また手術中に停電となり、病院中の懐中電灯を集めて無事手術を終えたこともありました。今は3台の自家発電装置が設置され、災害時の停電などには、対応出来るよう万全な対策がとられています。不知火の高潮災害では、我が家も顧みず病院に駆けつけ看護に当たったこと、我が家の傾いたままの檜の木を見る度にあの台風の日の外来が思い出されます。現在、当院では災害拠点病院として組織編制がされ、毎年訓練も行われ、災害時の対外的な応援体制と受け入れ態勢の整備も行われました。平成18年には病院機能評価バージョンIVを取得し、病院は大きく成長しました。

この度は、野村千津子（栄養科科長）、野村稚加子（検査科科長）、松田美知子（看護師長）、北山真由美（准看護師）、岩崎眞理子（診療情報管理士）の私達5名は勤続25年を病院と共に迎えることが出来ました。宇賀岳病院は開院25周年を迎え、地域の中にあつて確かな位置を築いたものと思います。地域住民の方々に、安心して安全な医療の提供が出来る病院として、今後も成長し続けることを願っています。

リハビリテーション部紹介

理学療法科



理学療法科 主任
塚本 一 精

理学療法とは病気やケガ（スポーツを含む）により、日常生活に支障をきたした方々に対して、起き上がり、立ち上がり、歩行などの基本的動作能力の回復を図る、身体的なリハビリテーションに携わる職種です。

その内容は、手足の関節の動きを良くしたり、筋力を回復させたりする「運動療法」、温熱・電気光線などの物理的な刺激を用いて、痛みの軽減などの治療を行う「物理療法」、実際の動作が円滑に行えるよう、その動作を繰り返す「基本動作訓練」などに加え、車椅子・杖などの使用に関する助言、また、麻痺や切断等により歩行が困難となった場合の装具や義肢に関する助言や訓練なども行います。この訓練の対象は脳卒中などの後遺症で麻痺を呈された患者様、

また骨折、腰痛、五十肩、頸部痛、靭帯損傷など整形外科疾患の患者様などです。

最近では心疾患・呼吸器疾患・糖尿病など内科疾患に対する運動療法も行っており、検査・評価に基づき適切な運動負荷を設定しトレーニングを行うことで、身体の生理的機能の改善（血圧・血糖値を下げる、肺で酸素を取りこみやすくするなど）を図ります。

また、スポーツ傷害後の競技復帰や傷害予防に対する助言や訓練等も行います。

PNFという手技を使用し、力を入れやすくしたり、逆にこわばった筋肉を柔らかくし運動や動作がスムーズに遂行出来るようコンディショニングを行います。

理学療法の対象となる方は高齢者から小児と幅広く様々な疾患に対応できるよう専門のスタッフ19名で頑張っています。どうぞ宜しくお願いします。

作業療法科



作業療法科 科長
宮本 康 弘

作業療法とは、リハビリテーション医療の中で確立された一つの分野で、医療をはじめ、保健、福祉、教育・職業の領域と幅広い分野で展開されている職業です。

作業療法は、「作業活動」を訓練に用いて、その人らしい生活が獲得されていくことを目標としています。私たちのいう「作業活動」とは、日常生活の諸活動や仕事、遊びなど人間に関わるすべての諸活動のこと입니다。

当院では、現在10名の作業療法士が働いています。対象としている患者様は、主に脳血管疾患（脳卒中、パーキンソン病など）と整形外科疾患（骨折やリウマチなど）の方です。実際には、脳卒中による手足の麻痺や手の外傷に対して、木工や革細工などを用いて筋力増強を行ったり、紙細工などによる手先の細かい動きの練習を行ったり、ボールや輪を用いたゲームなどを立位で行うことでバランスの獲得を図った訓練を行ったりします。そういった動きの基礎となる機能回復訓練を行いながら、人が生きていくために必要な食事、更衣、排泄、入浴などの日常生活活動訓練や炊事・洗濯・掃除といった家事訓練も重点的に行っています。たとえ身体機能が低下し、元々行っていた動作ができなくなったとしてもその動作ができない原因を評価し、その人にあった適切な動作のやり方や介助方法の訓練・指導を行っています。また、障害がある身体でも生活動作が出来るように、その人の機能にあったスプーンや車椅子などの自助具・福祉用具の選定も行っています。そして、自宅に戻られる患者様には退院前に家を訪問させて頂いて、家屋の改修や改造といった生活環境を調整することも行っています。

また、入院生活によって失われやすい、精神活動や生活意欲の維持と改善を図るために、レクリエーション活動を行っています。気分転換を図ったり、人との交流を持つことで社会性を促して、その人らしい生活に戻って頂くために援助を行っています。対象者の方によっては生活の役割も様々で、若い方では職業復帰を目標とされている方もいらっしゃいます。復職へ向けて身体機能、作業能力、一般能力（注意力や問題解決能力など）移動（車の運転）など様々な場面を評価し、その方に適した訓練を行っています。

作業療法は、「こころ」と「からだ」のリハビリテーションです。作業療法のリハビリをされている患者様すべてが、その人らしさを取り戻してもらうために当院の作業療法士は頑張っています。どうぞよろしくお願ひします。

言語聴覚科



言語聴覚療法科 科長
小田 実穂子

言語聴覚士は、1998年にようやく国家資格として認められ、歴史としてはまだまだ浅い分野です。

SPEECH (話す) - LANGUAGE (言語理解) - HEARING (聞く) - THERAPIST (セラピスト) を略して「ST」と呼ばれており、現在、当院にはこのSTが6名在籍しています。



ことばによるコミュニケーションの問題は脳卒中後の失語症、高次脳機能障害、聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害など多岐に渡り、小児から高齢者まで幅広く現れます。言語聴覚士はこのような問題の本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行います。

次に、成人によくある言葉の問題を紹介します。

大脳には言葉を理解し、生み出すことに関わる領域があり、その領域が脳卒中や事故などさまざまな原因で損傷された場合に失語症が起きます。しかし、失語症では「聴く、話す、読む、書く」の全ての言語機能が障害されるのではなく、うまく使える機能と使えない機能があり、比較的保たれた機能を用いて障害を受けた機能を補うことができます。つまり、うまく話をする事ができなくても、意思を伝える方法が他にある可能性があります。また、脳卒中・頭部外傷・パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症など神経や筋に生じるさまざまな病気によって、話すことに必要な機能に障害を受けることがあります。構音障害と言われていますが、発音ばかりではなく、呼吸や発声・共鳴・話すリズムなどに障害があり聞き手に解かりにくい発音となっている場合もあります。

次に、小児によくある言葉の問題を紹介します。

耳の聞こえに問題がなく、言葉を発するために必要な器官(唇や舌など)に異常がないにも拘わらず発音がおかしい場合を機能性構音障害といいます。言葉の発達には個人差がとても大きいものですが、4~5歳になると日本語にある音のほとんどが言えるようになります。また、発音の不明瞭さなどでコミュニケーションに困難をきたす事(周りから指摘され心理的ダメージを受ける)もありますので、この4~5歳が発音訓練の目安とされています。

言葉の問題には他にも様々なものがあります。何かお困りの事がございましたら、遠慮なく言語聴覚療法科までお問い合わせ下さい。

◆外来医師一覧表◆

※都合により変更になる場合がありますのでご了承下さい。

診療科		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
外科	診療担当医	鮑田 和博	江上 寛	松田 貞士	栗崎 貴	並川 和男	※1 担当医
	午後	手術・救急対応					ローテーション対応
整形外科	診療担当医	赤城 哲哉	井 賢治	林 泰夫	赤城 哲哉	塩川 徳	※1 担当医
	午後	手術・救急対応					ローテーション対応
内科	診療担当医	栗崎 貴 (総合診療科)	盛 三千孝	鮑田 和博 (総合診療科)	采田 憲昭	盛 三千孝	※2
	午後	采田 憲昭	福田 秀明	小山田直朗	福田 秀明	小山田直朗	ローテーション対応
神経内科	診療担当医	病棟		平原智雄(非常勤)	病棟		
循環器内科	診療担当医	病棟		午後 松原純一(非常勤)		午前 泉家康宏(非常勤)	
糖尿病センター	診療担当医	竹田 晴生	竹田 晴生	竹田 晴生	竹田 晴生	竹田 晴生	※3
内視鏡検査担当医	AM	松田貞士・小山田直朗	小山田直朗・采田憲昭	栗崎 貴・采田憲昭	松田貞士・鮑田和博	栗崎 貴	
	PM	鮑田和博・松田貞士・栗崎 貴	小山田直朗	鮑田和博・栗崎 貴	松田貞士・鮑田和博	栗崎 貴・采田憲昭	
小児科	診療担当医	村上 幹彦	村上 幹彦	村上 幹彦	村上 幹彦	村上 幹彦	
泌尿器科	診療担当医	中村 武利	病棟		中村 武利	病棟	
放射線科	読影担当医	高橋 睦正	高橋 睦正	病棟		高橋 睦正	高橋 睦正

※1 鮑田和博・赤城哲哉・井 賢治・塩川 徳・松田貞士・栗崎 貴、6名の医師によるローテーション対応になります。

※2 小山田直朗・福田秀明医師の2名によるローテーション対応になります。

※3 第1、第3、第5土曜日対応予定

受付時間(平日) 8:30~12:00 ・ 受付時間(土曜) 8:30~11:30 但し、(平日)整形外科 8:30~11:00
泌尿器科 8:30~11:30となります。